令和８年度　加美南中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア 英語4技能 （）内は3技能（参考）
			国語	数学	国語	数学	
３　年	学校	116	63	52	4.2	9.9	507（501）
	大阪市	－	60	55	5.4	11.4	499（499）
4月23日	全国	－	63.9	57.0	4.9	10.4	499（499）

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

〇全国学力・学習状況調査結果
＜国語＞
平均正答率は６３％で大阪市平均より３ポイント上回った。また大阪府平均よりも２ポイント上回った。しかし、全国平均と比べると0.9ポイント下回る結果となった。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」などの、語彙力を試される問題に課題が見つかった。
＜数学＞
平均正答率は５５％で大阪市平均より３ポイント下回った。数学に関しては苦手意識を持っている生徒が多く、積み重ねの教科でもあるので、問題を正解に導く力を日々の学習で身につけさせたい。
＜英語＞
平均IRTスコアは507で大阪市の499よりも８ポイント上回っている。しかしⅠ、２の割合がまだまだ低いので、今後も反復練習や基礎学習の定着をはかることを中心に指導していきたい。

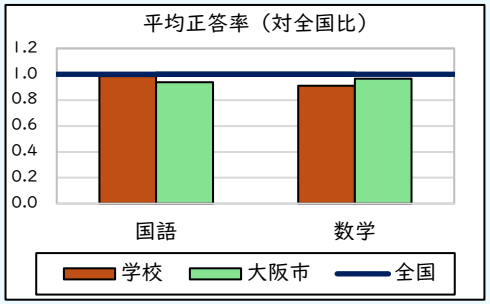
今後に向けて

〇全国学力・学習状況調査結果
＜国語＞
日々の授業の中で、初出の語彙やこれから知っておいてほしい語彙については、「〇〇とは、～ということ。」という形式で生徒に示しているが、今後はそれらの語彙を生徒自身が使っていくなかで身につけられるように工夫していきたい。
＜数学＞
授業に関する独自のアンケートでは、授業について「わかりやすい」と「まあわかりやすい」を合わせると85%の回答を得られているので、引き続き、わかりやすい授業を展開し、生徒の学力を伸ばしていきたい。
＜英語＞
日々の授業でICTを活用し、視覚や聴覚など色々な部分から学力向上を図りたい。
またWritingの部分は特定の生徒しか解答していないので、今後基本文や定型文などを中心に学習していき、自分の考えや意見の英作文を書けるように指導していきたい。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

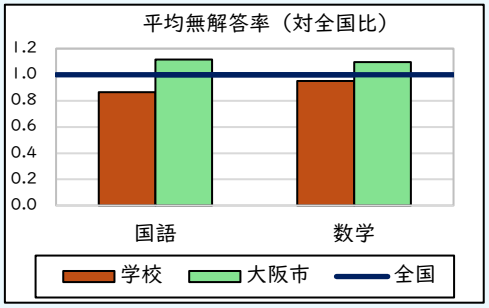
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	63	52
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



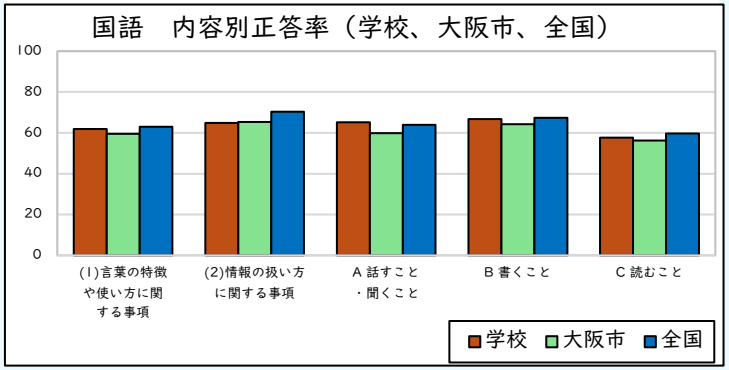
平均無解答率（%）

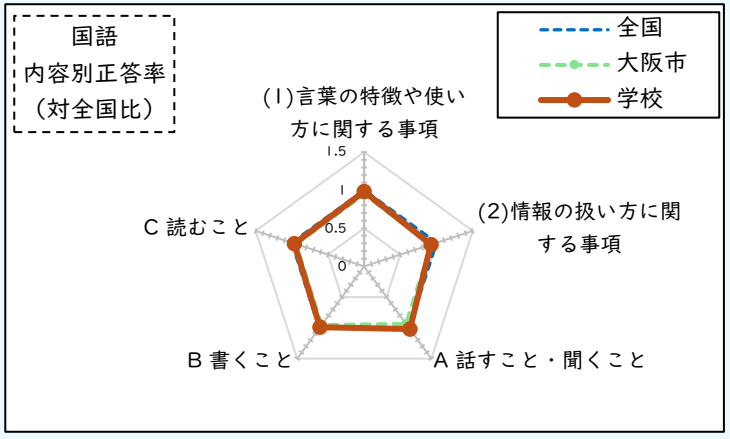
	国語	数学
学校	4.2	9.9
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

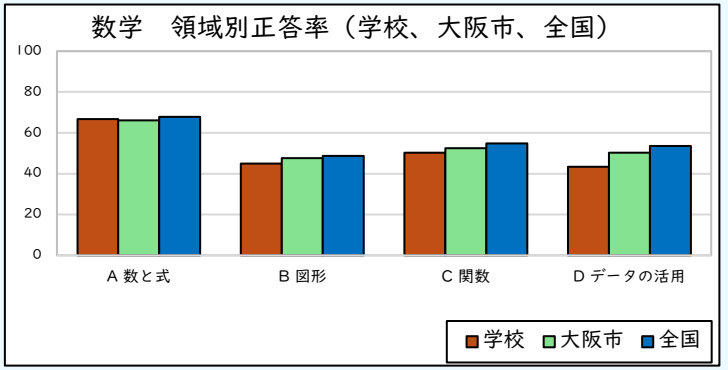
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	61.9	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	64.9	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	65.2	59.9	63.9
B 書くこと	3	66.7	64.2	67.4
C 読むこと	3	57.6	56.3	59.7

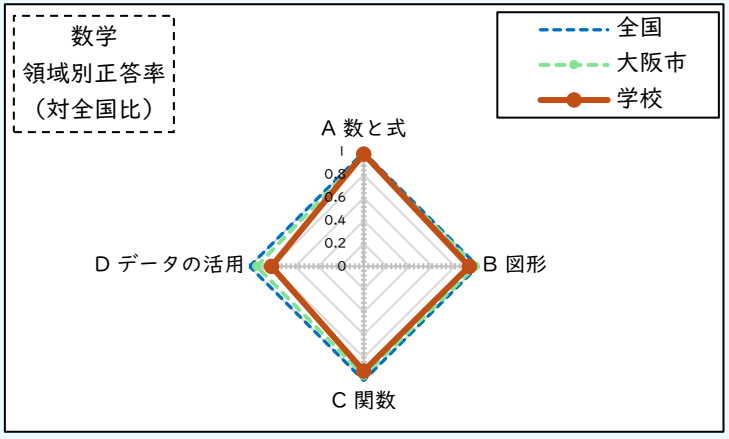




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	66.7	66.1	67.8
B 図形	4	45.0	47.6	48.7
C 関数	3	50.3	52.5	54.8
D データの活用	4	43.3	50.2	53.5

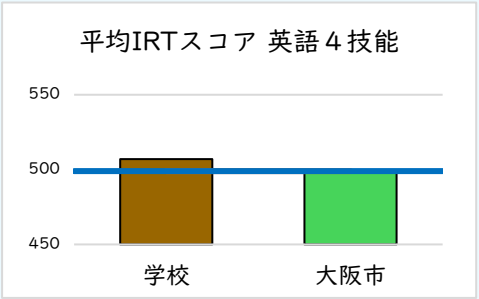




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	507（501）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力に よるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

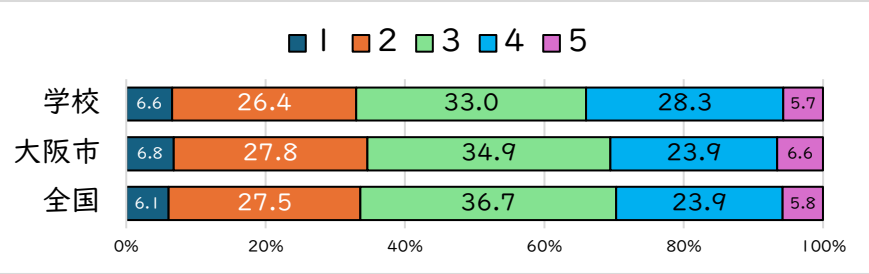
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

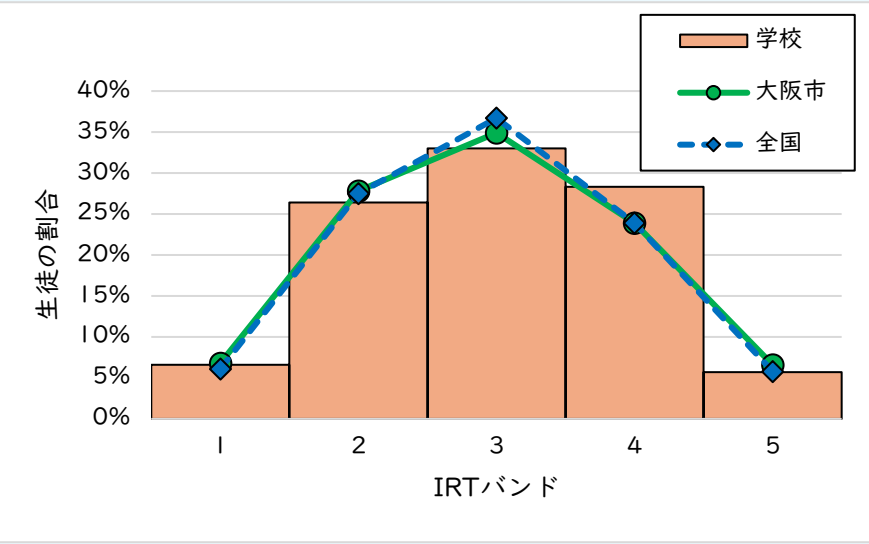
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	6.6	26.4	33.0	28.3	5.7
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



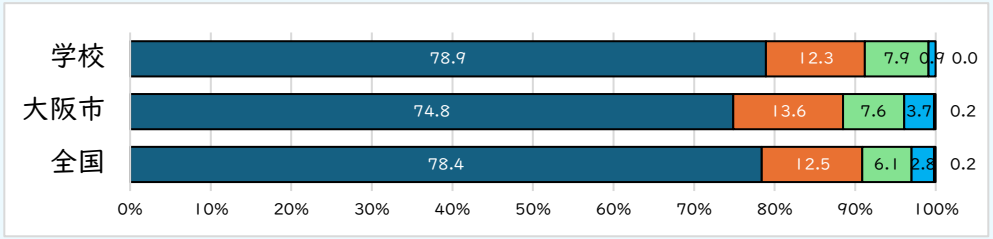
IRTバンド分布グラフ（４技能）

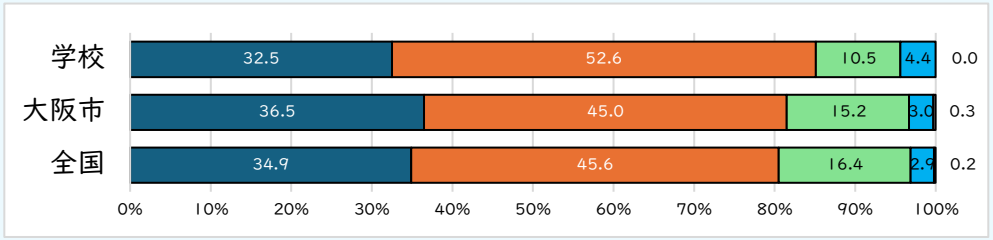


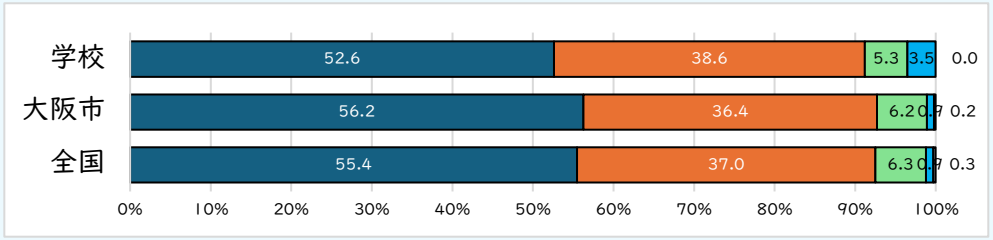
生徒質問調査より

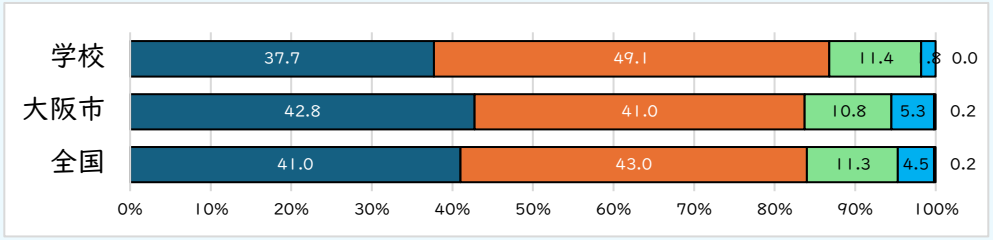
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

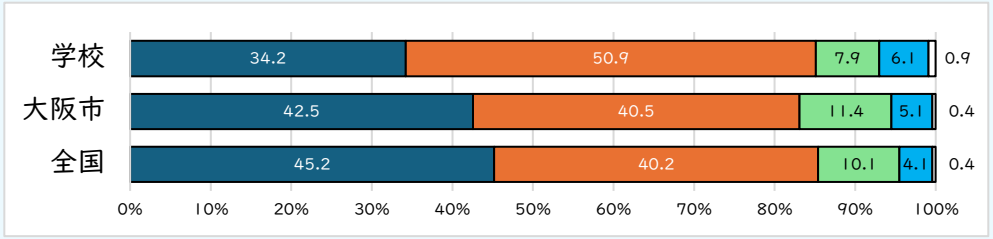
質問番号	質問事項
（1）	朝食を毎日食べていますか
（2）	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
（3）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
（8）	自分には、よいところがあると思いますか
（15）	学校に行くのは楽しいと思いますか









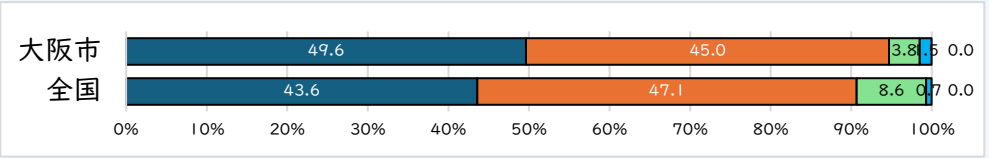


学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

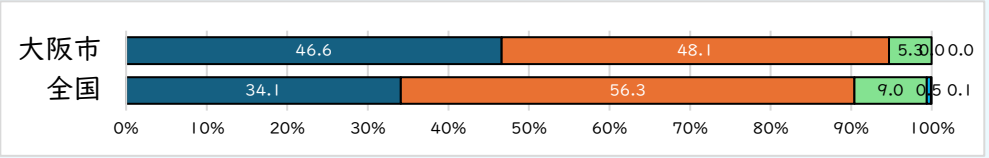
質問番号	質問事項
（8）	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか
（9）	調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか
（11）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか
（30）	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか
（46）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の授業で、生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか

【学校の回答】　1　そう思う



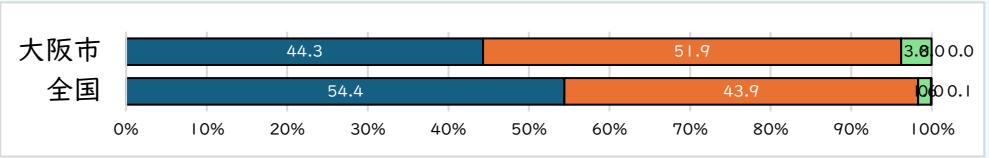
1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　1　そう思う



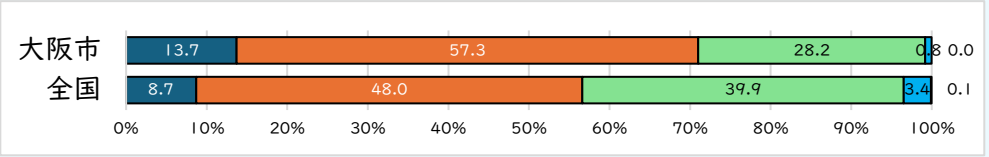
1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　1　よく行った



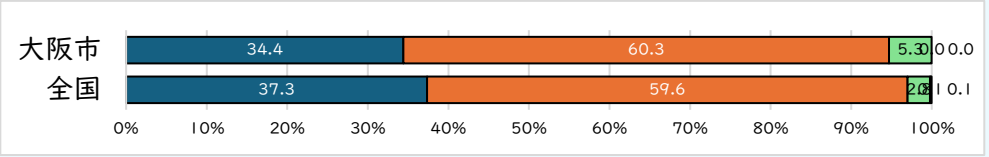
1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった

【学校の回答】　2　どちらかといえば、そう思う



1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　1　よく行った



1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった